

銅の輸出、輸入とも不振

自動車は販売が減少、住宅着工戸数不振

橋本健一郎氏リポート①

■国際概況

十一月前半は、中国の十月のPMIが景況拡大と悪化の分かれ目となる五〇を六カ月連続して割り込んだこと、米の失業率は三・六％と、約五〇年ぶりの低水準となった前月の三・五％から悪化。十月のISM製造業景気指数は四八・三と、景気拡大・縮小の節目となる五〇を三カ月連続で下回った。などのマイナスマテリアルもあつたが、十月の米雇用統計で、非農業部門雇用者数は一二万八、〇〇〇人増加と市場予想の八万九、〇〇〇人増を上回ったこと、景気後退懸念緩和による米株高を好感しLME銅相場はUP、十一月一日時点で五、八三五ドル(セツル)と月初価格より一〇ドルUPの前半締めとなった。

後半は香港人権法案が米議会で可決されたことを受けて、米中貿易協議に遅れが出るかもしれないとの懸念が増大などのマイナスマテリアルもあつたが、米トランプ大統領が米国と中国の通商協議が最後の山場を迎えている、と語ったことを受けて米国と中国の第一段階の通商協議が合意に近づいているとの期待感からLME銅相場はUP、十二月三日現在、後半スタート価格から四三ドルUPの五、八五五ドル。

銅建値は据置の六九万円スタート。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇九・八八→一一〇・五六(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、九月の自動車生産台数は前年比二・三％増の八二万八、八八九台であった。

輸出(十月)は四〇万四、八一一台で前年同月比五・二％減。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一四・六％減の二三万八、八四四台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年十月の住宅着工戸数は

七万七、一三三戸で、前年同月比で七・四％減となった。また、季節調整年率換算値では八七・九万戸(前月比二・〇％減)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二三・九％減の三万五、三三三t、スクラップが一八・八％減の二万五、一八三t。

輸入

輸入は電気銅が前年比六五・七％減の一、三〇八t、スクラップが一・二・六％減の一、〇〇、九三二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産(速報)によれば、前年比一三・五％減の六万三、三四六t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比六・五％減の六万〇、二〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、九月の自動車生産台数は前年比二・三％増の八二万八、八八九台であった。

輸出(十月)は四〇万四、八一一台で前年同月比五・二％減

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一四・六％減の二三万八、八四四台。

このうち、乗用車一四・五％減、貨物一四・六％減、バス二・二％減。

【住宅】

・令和元年十月の住宅着工戸数は七万七、一三三戸で、前年同月比で七・四％減となった。また、季節調整年率換算値では八七・九万戸(前月比二・〇％減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で四カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

LME銅・今月は米中貿易戦争の動向などが左右へ 為替予想

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一三・五%減の六万三、三四六tと、一一カ月連続減少。

海外の自動車向け需要を中心に回復の兆しが見えて来ない。ただ、銅板の生産だけは、好調を維持している。

品種別では、銅条は前年同月比一三・四%減少し、九カ月連続のマイナス。黄銅棒は前年同月比六・九%減少し、三カ月連続のマイナス。

【電線】

前年比六・五%減の六万〇、二〇〇t。このうち、国内は六・八%減、輸出は九・五%増。

【輸出】

電気銅輸出が二・三・九%減の三万五、三七三t、銅スクラップが一・八・八%減の二万五、一八三t。

【輸入】

電気銅が六五・七%減の一・三〇八t、スクラップが一・二・六%減の二万〇、九二二t。

【見通し】

・自動車は生産が二・三%増。国内販売台数が前年比一四・六%減。生産は小幅増だが、販売は大幅調整が入り来月も減少か？。

・伸銅品生産は前年比一三・五%減の六万三、三四六tと、一一カ月連続減少。米中貿易戦争の影響から約一年連続前年割れ、来月もマイナスでは？。

・電線は前年比六・五%減の六万〇、二〇〇t。

鉄原料

田原工場で五百〇一千円値上げ

そのほかの各工場と高松は今回は据置き

電炉最大手・東京製鉄は十二月四日、田原

工場と鉄原料の購入価格を引き上げた。値上げ幅は新断バラ、新断プレスA及びB、ダライ粉プレス、鋼ダライ粉の各品種がトン一、〇〇〇円、それ以外の品種は全てトン五〇〇円。

同社での値上げは、前月二十七日に全工場と高松鉄鋼センターで値上げされて以来のことである。

ただ、今回は、岡山、九州、宇都宮の各工場と高松鉄鋼センターでは据え置かれた。

同社の特級価格のレンジについては二万一、〇〇〇〜二万四、五〇〇円と、レンジの上値、下値ともに変化はみられていない。

なお、東京製鉄の特級価格は、次の通り(ト

t。このうち、国内六・八%減、輸出九・五%増。こちらも同様に回復期待薄

・銅輸出はLME価格の下落により減少。

・銅輸入は内需低迷から大幅減少。来月も続くのでは？

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が六九万円になったことや、年末要因からそこそこ出てきそう。

需要面に関しては足元の生産状況が悪化しており減少。

前月同様に米中貿易戦争から不透明感が強く、メーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、及び「香港人権・民主主義法案」の署名に関する対抗措置に左右される。

米中貿易問題に関しては中国経済もかなり傷んできており、諸々問題はあるものの、第一弾の合意をするのではないかと？

香港署名の対抗措置に関しては、目新しさがなく、本気度も低いのでは？

これらを踏まえた十二月の銅価格は五、八〇〇〜六、〇〇〇ドル(セトル)との予想。

ドル円値は一〇九円〜一一一元(TTM)台を予測。

銅建値に関しては六七〇〜七二〇円程度と予測している。

ン当り・円)。

- ▽田原工場(陸・海上) 〓二万四、〇〇〇
- ▽岡山工場(陸・海上) 〓二万二、〇〇〇
- ▽九州工場(陸・海上) 〓二万四、五〇〇
- ▽宇都宮工場(陸上) 〓二万四、〇〇〇
- ▽高松鉄鋼センター(陸上) 〓二万一、〇〇〇

◇KLT M ず相場

四日 一六・七五〇 米ドル
一一二 トン

◇東工取(四日前引、限月十二月)

金	五、一五六	円
銀	五九・五	円
白金	三、一七〇	円
パラジウム	出来ず	円